



常盤平地域まちづくり検討会議（第2回）を開催しました。

第2回まちづくり検討会議の概要

日時：令和7年12月15日（月） 18時～19時30分

場所：常盤平市民センター

出席：自治会や地域で活動されている皆様 15名

松戸市職員 5名、コンサルタント 7名

テーマ：「参考事例などを踏まえた地区の将来像について」

まちづくり検討会議の様子

当日は、松戸市の常盤平駅周辺まちづくり推進課の職員による検討会議の主旨・進め方の説明、まちづくり事例の紹介後、3班に分かれワークショップ形式にて、下記の3つの内容について、様々な意見交換が行われました。

- ・ 事例を踏まえた自由な意見交換
- ・ 事例を参考とした本地区に関する自由意見交換
- ・ 常盤平地域のまちづくりで取り組むべき方向性について



開会の挨拶



市職員説明の様子



ワークショップ形式による意見交換の様子

◎ 主な意見交換の内容

当日は、参加者から多くの様々な意見をいただき、有意義な意見交換の場となりました。

当日の皆様の見

A 班

常盤平地域の現状

- ・常盤平第一小学校の児童減少
- ・建物間のスペースが有効利用されていない
- ・飲食店が少ないため、交流機会を失っている
- ・外国の方や世代間での交流が難しい
- ・外国の方とゴミや騒音の問題でトラブルが起きやすい
- ・人を誘導できるものが必要
- ・金ヶ作公園はウォーキングの利用者が多い

取り組みたいこと

- ・公立の小中一貫校化や公共の複合施設を併設する
- ・集客施設や公共施設を人の導線を意識して配置する
- ・賑わいを創出し、地域の方の憩いの場となる、コミュニティスポットや地域の核となる施設を整備する
- ・外国の方や若年層にも向けたイベントを行う
- ・外国の方と話し合える機会の創出を行う
- ・交流拠点・機会を創出するためにソフト的な施策と商業を成り立たせるためのハード的な整備を行う
- ・金ヶ作公園にカフェや飲食店があれば、回遊性ができる

方向性、今後の展望

- ・新たな教育・文化施設の構築や地域で共有できるスペースの整備を行う
- ・人口や住民の年代、まちの機能に偏りのないまち
- ・住んでみたいと思わせるようなまちにしたい
- ・多世代・外国の方でも楽しめるイベント内容にする
- ・声を掛け合える場にする事で防犯と交流機会の創出につながる
- ・住むだけではなく、来訪者の多いまちにしたい
- ・地域に滞留し、拠点を一体的に利用できるように仕組み

B 班

- ・緑が豊かで景観が良いが、汚れている場所があり、印象が良くない
- ・明かりが樹木に遮られ暗い
- ・見守り(見回り)するだけでは問題に気づきにくい、立ち入れない場所はカバーできない

- ・月に一回けやき通りを歩行者天国にして、芸術作品を鑑賞できるイベントを行う
- ・地域資源となる緑は残しつつ、適切な緑量になるように管理を行う
- ・団地の中で SOS コールが出せるような環境をつくる

- ・アートと芸術をテーマとしてイベントを行う。地域住民の憩いの場となり、地域の活性化にもつながる
- ・緑資源は残すべきだが、同時に適切な居住空間であるべき
- ・高齢者をはじめ地域の方が声をあげやすい・かけやすいまちにしたい

B 班(続き)

常盤平地域の現状

- ・団地の敷地内に入りづらい
- ・常盤平地域に芸術家が多い
- ・団地の空き住戸は少ない
- ・トキウォークのような現在ある地域資源の活用がなされていない
- ・幅広い年代の方を呼ぶ仕掛けが必要である
- ・多世代・他国籍の方と交流機会が少ない

取り組みたいこと

- ・団地内の部屋に、アートを見せる場等の自由に入れる拠点をつくる
- ・アーティストを呼び、団地や公園の壁面に松戸市にちなんだ壁画を描いていただく
- ・芸術やものづくりを行う方や学生に団地の空き部屋を活用いただく
- ・トキウォークやスタンプラリーをイベントで活用し、回遊を促す
- ・イベントを行う際には多世代が楽しめるような工夫が必要である
- ・多世代他国籍の方が交流できる場の創出

今後の方向性、展望

- ・団地を自由に歩けるような環境にしたい
- ・アートと芸術のまちにしたい、地域資源としてまちの活性化に繋げる
- ・空き住戸の活用は、近隣住民へ配慮した取り組みが必要である
- ・地域のことを知りながら楽しめるイベントを行う
- ・まちぐるみで多世代で取り組める事柄が重要である
- ・世代・国籍問わず近隣に住んでいる人がコミュニティをもつ

C 班

- ・団地の敷地内に入りづらい、八柱駅と常盤平駅の間に住む高齢者は駅前まで行くのが大変である
- ・公園を利用する上で犬のフンによるトラブルがある
- ・団地の敷地内の公園には来訪者が入らない
- ・さくら通りが狭いため、歩きづらく、自転車も走行しにくい
- ・新京成の踏切周辺の渋滞
- ・まちが南北で二極化している
- ・集客施設を局所的に整備しても交通渋滞が予想される
- ・イベントの規模が小さいと感じる
- ・駐車場がないと人が集まらない

- ・コミュニティバスやベンチが必要である
- ・動く歩道を駅に向かって配置する
- ・公園の利用目的によって利用できるエリアを分ける
- ・公園のコンセプトを明確にし、目的に合わせて利用しやすくする
- ・道路幅を広げ、安全を確保したいが今の景観を壊したくない
- ・新しい交通としてこれまでにないルートを模索する
- ・駅から遠くに集客できる施設や場所を配置する
- ・費用をかけた派手なイベントをしたい
- ・エンターテインメントやスポーツを活用した賑わい

- ・将来を見据えたまちづくりを望む
- ・滞留し、回遊したくなるまちを望む
- ・公園の利用者が目的によって公園を使い分けられるような環境
- ・団地の公園をみんなで利用したい
- ・景観と安全面の両立が必要である
- ・新たな交通のネットワークとして最新の手段を使うだけでなく、新しい人の流れを創出したい
- ・常盤平地域の住民の状況に合わせた施設や設備が最優先である
- ・新しいまちづくりをする段階で大きなイベントやお祭りを開催し、徐々に盛り上げたい
- ・公共交通機関を利用する来訪者に向けたイベントを行う

● 今回の検討会議のまとめと次回検討会議で議論して頂きたいこと

第2回検討会議のまとめ

○ やってみたいこと・今後の方向性

<人の流れや回遊性を促す整備やイベント>

- コミュニティ施設や地域の拠点を、人の導線を意識して配置し、回遊性を創出したい
- 新たな交通のネットワークとして最新手段を使うだけでなく、新しい人の流れを創出したい
- アートと芸術を絡めながら団地や公園への人の流れを創出したい
- トキウォークやスタンプラリーを活用して回遊を促し、地域のことを知りながら楽しめるイベントを実施していきたい
- 高齢者でも地域内の移動に困らない環境を整えたい

<イベントの開催や交流拠点の創出による地域活性化>

- 多世代や外国の方等、多様な世代で楽しめるイベントや交流拠点をつくり、交流機会を増やしたい
- アートや芸術をテーマとしてイベントを行い、地域住民の憩いの場の創出や地域活性化につなげたい。
- まちづくりを行う段階で大きなイベントやお祭りを開催し、徐々に盛り上げたい
- エンターテインメントやスポーツを活用し、公共交通機関を利用する来訪者に向けたイベントを行いたい

<既存施設や設備の高度利用>

- 適切な緑量になるように管理を行うことで採光を確保し、団地周辺を明るくし、治安向上や団地の敷地内に踏み入れやすい環境の整備に取り組みたい
- 公園のコンセプトを明確にし、利用目的に合わせてエリアを分けることで、公園の利用者が目的によって公園を使い分けられるような環境を整えたい
- 公立の小中一貫校化や公共施設の複合化等により、新たな教育・文化を地域で構築し共有できるスペースを整備したい

第3回（2月13日）検討会議の主な内容について

- 第1回、第2回検討会議の振り返り
- まちづくりで整備したい・してほしいコト、取り組みたい・取り組んでほしいコト（ワークショップ）

皆さんで議論した内容を、進捗に合わせ市のまちづくりの計画へと反映する予定です！



やさシティ、まつど。
matsudo



本まちづくり通信に関するお問い合わせ先
松戸市街づくり部 常盤平駅周辺まちづくり推進課
TEL：047-710-5523 FAX:047-710-6689
Email：mctokitan@city.matsudo.chiba.jp

